

— 目次 —
 — CONTENTS —

- 2 特集
じぶんいろ
- 8 特集
物価高騰に対する支援策
- 10 フォト特集
まっせ・はしもと
- 12 情報ワイド
 - ▶入札参加資格審査
 - ▶市政功労者表彰・文化表彰
 - ▶年末年始の業務案内
 - ▶長期総合計画パブコメ など
- 18 情報ひろば
- 26 タウン情報
- 27 子育てぱーく
- 28 本のひろば
- 29 健康カレンダー
- 30 フォトトピックス

今月の表紙



11月13日に開催された「すこやか橋本まなびの日」の「めいろであそぼう」のコーナーで、元気に遊ぶ子どもたち。

特集

じぶんいろ
 —一人ひとりが輝ける未来をつくる—



乳幼児健康診査（3歳6カ月）の様子

すべての子どもの
豊かな発達を目指して

子どもの成長・発達は、早かったり、緩やかだったり、それぞれ違うのは当たり前のことです。一人ひとりの「色」があります。そして、その色が輝く環境も人それぞれです。橋本市では、すべての子どもが豊かに成長できるよう、0歳～18歳まで一貫した相談が受けられます。今回の特集では、すべての子どもが自信をもって、自分らしく生活できるようにサポートする発達相談事業について紹介します。

【子育て世代包括支援センター、子ども課、学校教育課】

子どもの成長・発達を理解する

発達相談は、「発達を追いつかせる」ために行うのではなく、子どもが自分らしく成長できる場や方法を検討し、子どもに関わる大人がその子どもを理解し、育ちを受け止め、支えていけるようにすることが目的です。そのために、子どもの成長・発達を支える保護者、保健師、保育者、教師など、子どもに関わるすべての人がチームとなって、子どもたちの豊かな自己実現を支援します。

自分らしく生活するために

もの見方や感じ方は人それぞれですが、偏りがあることで友だちとのコミュニケーションが難しくなったり、落ち着きがなかったり、さまざまな特徴を持つ子どもがいます。これらの特徴により、生活に支障が出てくる場合は、「発達障がい」という生まれつきの脳機能の障がいの可能性があります。一般的に発達障がいのある人は、社会への適応が難しくなります。また、見た目にはわかりにくい傾向があり、周りの人から理解されにくい傾向があります。発達障がいの傾向がある子どもは、早期からその子に応じた支援を受けることで、その子らしく生活していくことにつながります。そのことから市では、子どもの年別に応じたさまざまな発達相談を行なっています。